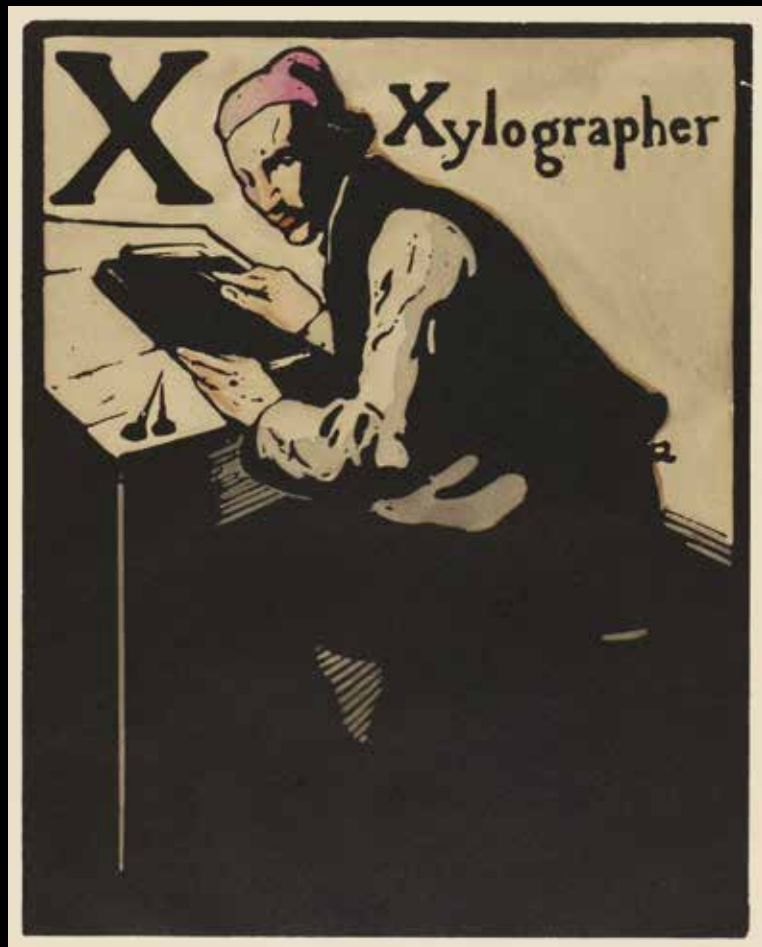


# Woodcut Prints in Europe and America



## 西洋の木版画

500年の物語

2020. 9/26 | 土 | - 11/23 | 月・祝 |

町田市立国際版画美術館

## 木版画のはじまり

ヨーロッパで木版画が作られるようになったのは14世紀末といわれます。版画の発達に必要な紙が13世紀後半にイタリアで漉かれるようになり、15世紀に入るとヨーロッパ各地で生産が進んだことによって、木版画の制作も発展していきました。

初期の木版画は、寺院が巡礼者などにむけて販売したキリストやマリアなどの聖像に用いられ、日々の祈りの対象や、守り札などに使われました。またゲームカードなど、日常的な用途をもつもの制作にも用いられました。

かつて書物は、家畜の皮を薄く削った羊皮紙<sup>ようひし</sup>などを用い、一冊ずつ手で文字を書き写した手写本<sup>しりょうほん</sup>とよばれる非常に高価なものでした。製紙術の普及で紙の価格が下がり、さらに15世紀なかばにグーテンベルクが発明した活版印刷により、書物の出版は飛躍的に増大します。木版画は活字と同じ凸版で、文章と一緒に版に組み込んで印刷できることから、書籍の挿絵として広く用いられ発展していきました。日本の木版画は水性の墨や絵具を用いて手作業で摺られてきましたが、西洋の木版画は油性インクとプレス機で刷るのが主流です。この特徴はその初期に書物とともに発展したことに大いに関係しているのです。



「ライオンの刺を抜く聖ヒエロニムス」

1450年頃

世界に3部しか残っていない希少な初期木版画です。色彩は刷った版画の上から絵具を用い、手で塗られたものです。

## 『貧者の聖書』より

1440年以降

「木版本」あるいは「版木本」とよばれる、一枚の版木に文字と絵を彫って刷った書物の1ページ。棒などを用い、紙の裏面から強くこすって刷るため強い凹凸がつき、片面にしか印刷ができません。



## シェーデル『年代記』より

1493年刊

活字を組んだ文章に、木版画の挿絵が組み込まれています。

ニュルンベルクの印刷業者アントン・コーベルガーにより出版された『年代記』は、1809図の木版画が入れられた600ページを超える大冊の書物です。挿絵とレイアウトはミハエル・ヴォールゲムートとヴィルヘルム・プライデンヴルフが担当しました。





## アルブレヒト・デューラー

木版画の歴史において、15世紀末のアルブレヒト・デューラー(1471-1528)の登場はもっとも重要なできごとのひとつです。西洋の木版画はここで早くも最初の頂点をむかえるのです。

デューラーが育ったニュルンベルクは出版がさかんでした。彼の名付け親は『年代記』を出版した印刷業者のコーベルガーであり、その挿絵を描いたヴォールゲムートのもとで画家の修業をしています。デューラーがのちに自分の版画を出版する際に書籍の形にすることにこだわりを見せたのは、こうしたことが関わっているともいわれます。1498年に出版した『黙示録』も、表に木版画、裏に聖書の文章を刷った全16葉が書籍の形で出版されています。

彫り残した部分を線として刷り取る木版画は、精密な線の表現に適しているとはいえません。初期木版画では、ものの形を示す輪郭線に陰影を示すための短い斜線を加える程度で、それが素朴で力強い魅力を生み出す反面、空間や立体感の表現には欠けています。15世紀なかばには下絵、彫版、刷りの分業が進み、彫版の技術はかなりの進歩をとげていました。しかしデューラーの木版画の卓越した技術と圧倒的な表現力はまさに革新的であり、比べ物になりません。自在な線はものの形を示し、豊かな陰影を作り出し、動きや光を表現し、黙示録の幻想的な世界を現前させます。

デューラーに続き、16世紀には彼の周辺をはじめとする多くの画家が木版画に取り組みました。キアロスクーロとよばれる多色刷りの技法も考案されます。しかし西洋の版画制作の中心は細密な表現が可能な銅版画に移り、木版画は16世紀の終わりには衰え、民衆的な刷り物にわずかな命脈を保つばかりになってしまいました。

### アルブレヒト・デューラー 『黙示録』より「四人の騎者」 1498年頃

日本の浮世絵版画と同様に、この時代には木版画制作の分業が進み、画家は構図を考えて下絵を制作すると、彫りの作業は職人に任せていました。デューラーも基本的には同じと考えられますが、『黙示録』をはじめとする版画集で彼は企画・制作・版元のすべてを行っており、彫りにも関わった可能性が指摘されています。





「民衆版画」は、広い意味では文字通り「大衆的な刷り物(刷りの技術を用いて制作されたもの)」のことです。民衆は聖者を描いた版画に祈りをささげ、文字の読めない者は絵を通してキリスト教の教えを理解しました。旅みやげの名所絵を楽しみ、絵入りのちらしでニュースを知ることもありました。模様を刷った紙で住まいを飾り、切り抜いて作る人形や組み立て絵で遊びました。民衆版画は日常の生活のなかで実際に使用されたことから、後世まで残された例は多くありません。

民衆版画は銅版画で制作されることもありましたが、その主流はやはり木版画でした。しかし18世紀末にリトグラフの技法が発明されると、より簡便なこの技法が多く用いられることとなります。化学的処理によって版をつくるリトグラフは版を彫る必要がなく、制作が容易であることがその理由でしょう。

かつてヨーロッパ各地で作られていた民衆版画は、時代の変化とともに次第に姿を消していきました。19世紀の初めにフランスのエピナルに民衆版画の伝統を受け継ぐ版画工房がジャン＝シャルルとニコラのペルラン親子によって開かれ、この小さな町では現在までその制作と販売が続けられています。



「聖ステパノ」  
16世紀後半～17世紀初頭

パリで出版された民衆版画。聖人が殉教するまでを絵と文字で説明しています。中央の画像は祈りの対象でもあったことでしょう。



木口木版の  
版木とビュラン

一本の木を輪切りにした切断面を「木口<sup>こぐち</sup>」といいます。木口木版は、ツゲのような目のつんだ堅い木材の木口を版木に用い、ビュランとよばれる鋭い刃物で細密な線を彫りこんでいく技法で、銅版画を思わせる緻密な表現が可能です。18世紀後半にこの技法を確立したのがイギリスのビューイックです。19世紀には本や新聞の図版などで広く用いられました。

1860年代に木口木版の多色刷りを実用化したのが、イギリスの刷師エドモンド・エヴァンスです。多色刷りには輪郭線のための主版と複数の色<sup>おもはん</sup>版<sup>いろ</sup>を用います。インクの色数に応じた枚数の色版を準備し、版木に刻む線の幅や密度、あるいは方向によって色の濃淡を表現します(図1)。これらの色版を刷り重ねて混色を作り出すことで、さらに多くの色を表現することができます(図2)。

こうした工夫を重ねることで、エヴァンスは限られた枚数の版でカラフルな図版を刷ることに成功、トイブックとよばれる安価で美しい絵本で大きな人気を集めました。



図1



図2

## 木口木版と出版

木版画はかつて書物とともに発展をとげてきました。しかし、版画の主流が銅版画に移るとともに、書籍の挿絵においても銅版画が好まれるようになりました。

凹版である銅版画は活字と同時に刷ることができません。刷りの作業も木版画に比べて手がかかります。手写本ほどではありませんが、それでもやはり書籍は限られた階層のための高級品だったのです。

木口木版は銅版画のように細かな線描が可能で、なおかつ活字と同時に刷ることができます。銅版に較べて材料も安く、丈夫な版木は大量の印刷に耐えられます。識字率<sup>しきじりつ</sup>が向上し、書籍や新聞を読む層が大きく増えた19世紀にあって、この便利な技法はまたたくまに広まり、画家が描いた原画をもとに版を彫る専門の職人が活躍しました。

木口木版では年輪方向の木材から切り出すため、あまり大きなサイズの版木を取ることができません。しかしこの問題は、複数の版木をつなぎ合わせて一枚の大きな版木にする方法によって解決されました。『神曲』シリーズをはじめとするドレの挿絵本では、画家の想像力あふれるドラマティックな場面が、優れた彫り職人の手によって版にうつされ、大きな画面に次々と展開していきます。

多色刷りでも、ドイルが水彩で描いた繊細な色彩をエヴァンスがみごとに再現した『妖精の国で』のような優れた書籍が出版されました。

しかし19世紀後半になって写真技術を利用した印刷技術が登場すると、木口木版は急速にすたれていくことになります。



トマス・ビューイック『英国鳥類誌』より  
1797年刊

彫り残しによる黒い線と、彫り取った白い線を巧みに使い分けていることがわかります。



ギュスターヴ・ドレ  
『神曲 煉獄篇』より  
1868年刊

輝く太陽とそれを覆う黒い雲、柔らかな白雲と力強くはばたく鷲<sup>たし</sup>。劇的な明暗と、質感の違いがみごとに表現されています。



リチャード・ドイル原画／エドモンド・エヴァンス刻 『妖精の国で』より  
1870年刊

12枚もの色版を刷り重ねた、エヴァンスの代表作。



19世紀を通して印刷技術が発展をとげると、版画は図像の印刷という実用的な役割を失い、その存在意義を改めて問われることになりました。

木版画が美術表現として見直されるのは1880年代末のことで、その契機となったのは日本の浮世絵版画でした。

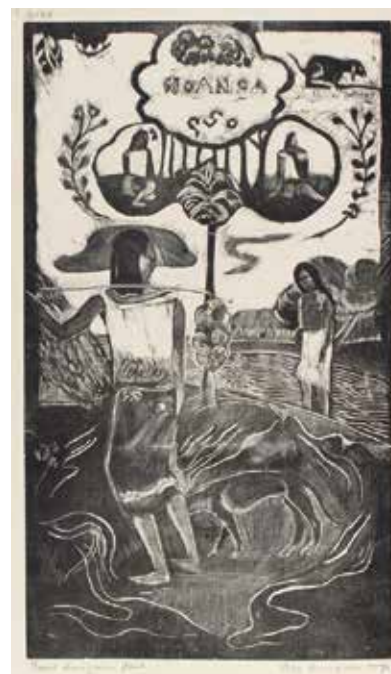
浮世絵版画の方法での制作を試みたのが、アンリ・リヴィエールとオーギュスト・ルベールです。木口木版は盛んでしたが、いわゆる木版画(板目木版)の技術はすたれており、また浮世絵版画の制作についての情報も少なく、苦労の末に多色刷り木版を完成させました。しかし多色刷り版画の技法としては、手間のかかる木版画よりもリトグラフを好む画家が多かったようです。

19世紀の画家たちが日本美術に注目したのは、彼らが新しい時代の絵画を探求していたからです。写実を重視する伝統的な絵画理念は、産業が発展し社会の構造が変わった19世紀後半にはそぐわないものとなっていました。そして写真の登場が決定的な影響を与えました。平面的で装飾的でありながら強い表現力をもつ日本美術に、彼らは新しい美術の可能性を見出したのです。

この時代の木版画において大きな存在とされるのが、ゴーギャン、ヴァロトン、そして残念ながら今回は出品していないエドヴァルド・ムンクです。平面性と装飾性、白と黒(あるいは色面)のコントラストが印象的な構図、素朴な力強さ、写実を越えた神秘性と暗示性など、木版画の特質を活かした彼らの表現は、その後の西洋の木版画に深く長い影響を残しています。色面を配したカンディンスキーやジャン・アルプの作品、刻線の表現力が印象的なエルンスト・キルヒナーやアンゼルク・キーファーの作品など、画家の個性を強く打ち出しながらも、その底流には通じるものが感じられます。1960年代以降はアメリカを中心に版画工房でのアーティストとブローカーのプリンターのコラボレーションによる制作が活発になり、木版画技法の新たな可能性が追求されています。



フェリックス・ヴァロトン 「街頭デモ」  
1893年



ポール・ゴーギャン 「ノアノア」  
1893-94年



ヴァシリー・カンディンスキー 『響』より  
1913年刊

## 出品リスト

凡例

番号／作者名／作者名(欧文)／作品名／作品名(英語)／制作年代／技法／サイズ(縦×横)／所蔵(記載のない作品は町田市立国際版画美術館蔵)

### I. 木版画のはじまり

**1**  
木版本『貧者の聖書』より  
**Blockbook *Biblia pauperum***  
1440年以前 木版、手彩色 270×196mm

**2**  
木版本『黙示録』より  
**Blockbook *Apocalypse***  
1465年頃 木版、手彩色 126×195mm

**3**  
ライオンの刺を抜く聖ヒエロニムス  
**St. Jerome pulling a Thorn out of the Paw of a Lion**  
1450年頃 木版、手彩色 180×125mm

**4**  
トゥールーズの聖ルイ(?)  
**St. Louis of Toulouse (?)**  
15世紀末 木版、手彩色 80×59mm

**5**  
三日月上の聖母子  
**The Virgin and Child on a Crescent Moon**  
1500年頃 木版、手彩色 166×115mm

**6**  
キリストの昇天  
**The Ascension**  
16世紀初頭 木版、手彩色 68×50mm

**7**  
手写本  
**Manuscript**  
1460/65年頃 羊皮紙、紙 160×115mm

**8**  
『聖書』(ドイツ語)より  
**Bible, German**  
1477年刊 木版、手彩色 90×73mm

**9**  
『聖書』(低地ドイツ語)より  
**Bible, Low-German**  
1478年頃 木版 119×191mm

**10**  
『人類救済の鑑』より  
**The Mirror of Human Salvation**  
1473年刊 木版、手彩色 74×118mm

**11**  
『魂の庭』より 地獄の責め苦  
**The Torments of Hell, from the Garden of the Soul**  
1483年刊 木版、手彩色 193×120mm

**12**  
ミヒャエル・ヴォルゲムート 1434-1519  
**Michael WOHLGEMUT**  
ヴィルヘルム・ブライデンヴルフ  
?- 1494  
**Willhelm PLEYDENWURFF**  
ハルトマン・シェーデル『年代記』より  
**Hartmann Schedel, Nuremberg Chronicle**  
1493年刊 木版  
1. 438×305mm(紙)  
2. 193×535mm

**13**  
『歴史の海』より  
**The Sea of Stories**  
1491年刊 木版 295×221mm

**14**  
『ウェルギリウス著作集』より  
**The Works of Virgil**  
1502年刊 木版 170×152mm

### II. デューラーの登場

**1-3**  
アルブレヒト・デューラー 1471-1528  
**Albrecht DÜRER**

**1**  
『黙示録』より  
**The Apocalypse**  
1498年頃(1511年刊) 木版  
390×280mm程度  
1. ヨハネと七つの燭台  
St. John's Vision of the Seven Candlesticks  
2. 四人の騎者  
The Four Riders of the Apocalypse  
3. 子羊の前の選ばれし者たち  
The Adoration of the Lamb and the Hymn of the Chosen  
4. ユーフラテス河畔の四人の天使  
The Battle of the Angels

**2**  
『小受難伝』より  
**The Small Passion**  
1508~1511年頃 木版  
1をのぞき 127×97mm程度  
1. 扉：苦惱の人キリスト  
Title page: Christ, Man of Sorrows 147×115mm  
2. キリストの荆冠  
Christ Crowned with Thorns  
3. 手を洗うピラト  
Pilate Washing His Hands  
4. キリストの死の哀悼 The Lamentation

**3**  
『銅版受難伝』より  
**The Engraved Passion**  
エングレーヴィング  
1. 円柱のかたわらの嘆きの人  
Man of Sorrows by the Column 1509年 120×75mm  
2. キリストの荆冠  
Christ Crowned with Thorns 1512年 114×77mm  
3. 手を洗うピラト  
Pilate Washing His Hands 1512年 117×74mm  
4. キリスト哀悼  
The Lamentation 1507年 116×72mm

**4**  
アルブレヒト・アルトドルファー  
1480頃-1538  
**Albrecht ALTDORFER**  
『人類の墮落と救済』より  
**The Fall and Redemption of Man**  
1513年頃 木版 72×48mm程度  
1. 十字架にかけられるキリスト  
The Nailing to the Cross  
2. 十字架をたてる  
The Raising of the Cross  
3. 磔刑 The Crucifixion  
4. キリスト降架  
The Descent from the Cross  
5. マグダラのマリアのまゝに現れたキリスト  
Christ Appearing to Mary Magdalene  
6. キリストの昇天 The Ascension  
7. 聖母の死 The Death of the Virgin  
8. 最後の審判 The Last Judgement

**5-6**  
ハンス・バルドゥング・グリーン  
1484/86-1545  
**Hans BALDUNG GRIEN**

**5**  
聖母子  
**The Virgin and Child**  
1505-07年頃 木版 234×161mm

**6**  
天使たちに天上に運ばれるキリストの亡骸  
**Christ Carried to Heaven by Angels**  
1515-17年頃 木版 223×153mm

**7**  
レオンハルト・ベック 1480頃-1542  
**Leonhard BECK**  
『皇帝マクシミリアン一世係累聖人図集』より  
**A General Account of the Ancestry of Emperor Maximilian I.**  
1516-18年頃 木版 234×210mm  
1. 聖ヘドヴィヒ St. Hedwig  
2. 聖ヨドクス St. Jodocus

**8-9**  
ゼバルト・ペーハム 1500-1550  
**Sebald BEHAM**

**8**  
垣根のまゝにすわる恋人たち  
**Lovers Seated before a Fence**  
1522年頃 木版 125×85mm

**9**  
葡萄の蔓の中にいるニンフとサテュロス  
**A Nymph and a Satyr in a Vine**  
1520-25年頃 木版 485×322mm

**10**  
ヨスト・アマン 1539-1619  
**Jost AMMAN**  
楽園のアダムとエヴァ  
**Adam and Eve in Paradise**  
1580年 木版 276×188mm

**11**  
クリストツフェル・イエーヘル  
1596-1652/53  
**Christophel JEGHER**  
原画 ビーター・パウル・ルーベンス  
1577-1640  
**After Peter Paul RUBENS**  
サテュロスとファウヌスに伴われたシノレス  
**Silenus Accompanied by a Satyr and a Faun**  
1633-35年頃 木版 446×338mm

**12**  
アントニオ・ダ・トレント  
16世紀前半ポローニャで活動  
**ANTONIO DA TRENTO**  
原画 バルミジャーノ 1503-1540  
**After PARMIGIANINO**  
聖ペテロとパウロの殉教  
**The Martyrdom of Sts. Peter and Paul**  
16世紀前半 木版(キアロスケーロ)  
1. 黒と茶の濃淡三版 288×476mm  
2. 黒と緑の濃淡三版 285×472mm

**13**  
バルトロメオ・コリオラーノ  
1599頃-1676頃  
**Bartholomeo CORIOLANO**  
原画 グイド・レーニ 1575-1642  
**After Guido RENI**  
改悛する聖ヒエロニムス  
**St. Jerome in Penitence**

1637年 木版(キアロスケーロ)、黒と緑の濃淡三版) 290×219mm

**14**  
ジョルジョ・ギージ 1520/21-1582  
**Giorgio GHISI**  
人生の寓意  
**Allegory of Life**  
1561年 エングレーヴィング  
384×545mm

**15**  
レンブラント・ファン・レイン  
1606-1669  
**REMBRANDT van Rijn**  
足のきかない男を癒す聖ペテロと聖ヨハネ  
**Sts. Peter and John Healing the Cripple of the Gate of the Temple**  
1659年 エッチング、ドライポイント、エングレーヴィング 180×212mm

**16**  
ヴェンツェスラウス・ホラー  
1607-1677  
**Wenceslaus HOLLAR**  
マフとレース  
**Muffs and Lace**  
1647年 エッチング 110×205mm

**17-20**  
民衆版画  
**Imagerie populaire**

**17**  
聖ステパノ  
**St. Stephen**  
16世紀後半-17世紀初頭 木版、手彩色  
373×486mm

**18**  
七つの悲しみの聖母  
**Our Lady of Seven Sorrows**  
1772-1828年 木版、手彩色 455×345mm

**19**  
フランソワ・ジョルジャン 1801-1863  
**François GEORGIN**  
奇跡の蒸留器  
**The Miraculous Alambic**  
1839年 木版、手彩色 305×541mm

**20**  
あやつり人形：ジョクリスとカッサン  
ドルじいさん  
**Puppets, Jocrisse and Père Cassandre**  
19世紀後半 リトグラフ、手彩色  
245×371mm

### III. 木口木版

**1-3**  
トマス・ビューイック 1753-1828  
**Thomas BEWICK**

**1**  
チリングハムの野生の牛  
**The Wild Bull of Chillingham**  
1789年 木口木版、手彩色 186×241mm

**2**  
『英国鳥類誌』  
**A History of British Birds**  
1797/1804年刊 木口木版 235×137mm

**3**  
『四足獣概説』  
**A General History of Quadrupeds**  
1790年刊 木口木版 208×134mm

**4-6**  
ギュスターヴ・ドレ 1832-1883  
**Gustave DORÉ**

**4**  
『神曲 地獄篇』より  
**Dante Alighieri, The Inferno**  
1865年刊(初版1861) 木口木版  
235×193mm程度  
1. 暗い森の入口のダンテ The Forest  
2. ファリナータ Farinata  
3. 毒蛇に苦しめられる盗賊たち Thieves

**5**  
『神曲 煉獄篇』より  
**Dante Alighieri, The Purgatorio**  
1868年刊 木口木版 235×193mm程度  
1. 鷲(ダンテの夢) The Eagle  
2. 第七の環道(好色の罪-炎の中の亡者)  
The Seventh Circle: the Lustful

**6**  
『神曲 天国篇』より  
**Dante Alighieri, The Paradiso**  
1868年刊 木口木版 235×193mm程度  
1. 火星天(第五天:火星天への上昇) Mars  
2. 恒星天(第八天:天国の大合唱)  
The Heaven of the Fixed Stars

**7-8**  
日和崎 尊夫 1941-1992  
**HIWASAKI Takao**

**7**  
**KALPA-X**  
1969年 木口木版 246×222mm

**8**  
**KALPA '69-B**  
1969年 木口木版 186×248mm

**9**  
小林 敬生 1944生まれ  
**KOBAYASHI Keisei**  
蘇生の刻 緑の星・B  
**Transferred Soul: Illusional Planet B**  
1990年 木口木版 855×1295mm

**10-13**  
ウォルター・クレイン 1845-1915  
Walter CRANE

**10**  
『ハバードおばさん』  
Mother Hubbard  
1897年刊 木口木版(多色) 275×228mm

**11**  
『へんてこABC』  
The Absurd ABC  
1897年刊 木口木版(多色) 275×228mm

**12**  
『ウォルター・クレインのぬりえ絵本』  
Walter Crane's Painting Book  
1889年刊 木口木版(多色) 190×205mm

**13**  
『ライオネルのおはなし』  
Legends for Lionel  
1887年刊 リトグラフ(多色)  
250×184mm

**14-16**  
ケイト・グリーナウェイ 1846-1901  
Kate GREENAWAY

**14**  
『窓の下で』  
Under the Window  
1878年刊 木口木版(多色) 240×180mm

**15**  
『ハメルンの笛吹き』  
The Pied-Piper of Hamelin  
1888年刊 木口木版(多色) 250×220mm

**16**  
『ゲームの本』  
Book of Games  
1889年刊 木口木版(多色) 230×182mm

**17-19**  
ランドルフ・コルデコット 1846-1886  
Randolphe CALDECOTT

**17**  
『えっさかほいと赤ちゃんのおくるみ』  
Hey Diddle Diddle and Baby Bunting  
1882年刊 木口木版(多色) 220×223mm

**18**  
『乳しほりの娘』  
The Milkmaid  
1882年刊 木口木版(多色) 220×223mm

**19**  
『おいで娘さんと若者たち』  
Come Lasses and Lads  
1884年刊 木口木版(多色) 220×223mm

**20**  
リチャード・ドイル 1824-1883  
Richard DOYLE  
『妖精の国で』  
In Fairy Land, A Series of Pictures  
from the Elf-World  
1870年刊 木口木版(多色) 378×275mm

#### IV. 近代から現代へ

**1-2**  
オーギュスト・ルベール 1849-1918  
Auguste LEPÈRE

**1**  
チュイルリー庭園の池  
The Pond in the Tuileries Garden  
1898年 木版(多色) 218×335mm

**2**  
砕ける波、九月の潮、サン・ジャン・  
デ・モン  
Breaking Waves, September Tide,  
St. Jean des Monts  
1901年 木版(多色) 285×400mm

**3-5**  
アンリ・リヴィエール 1864-1951  
Henri RIVIÈRE

**3**  
エッフェル塔の建築現場  
The Building Site of the Eiffel Tower  
1889年 木版(多色) 218×344mm

**4**  
『ブルターニュ風景』より  
フレネーの入江  
Bay of la Fresnaye (Saint-Caast),  
from Breton Landscapes  
1891年 木版(多色) 230×348mm

**5**  
『時の魔法』より 水の反映  
Reflections, from The Enchantment  
of Hours  
1901年刊 リトグラフ(多色)  
240×600mm

**6-7**  
南 薫造 1883-1950  
MINAMI Kunzo

**6**  
畑を打つ  
Digging in the Field  
1911年頃 木版(多色) 190×295mm  
個人蔵(当館寄託)

**7**  
風景  
Landscape  
1911年頃 木版(多色) 168×278mm  
個人蔵(当館寄託)

**8-10**  
ポール・ゴーチャン 1848-1903  
Paul GAUGUIN

**8**  
『ノアノアのための10点の木版画』より  
10 Woodcuts for Noa Noa  
1893-94年(5をのぞき1921年刊) 木版  
355×205mm  
5をのぞき個人蔵(当館寄託)  
1. ノア・ノア(かぐわしい)  
Noa Noa (Fragrant Scent)  
2. 宇宙創造 The Creation of the Universe  
Nave Nave Fenua (Fragrant Isle)  
3. ナヴェ・ナヴェ・フェヌア(かぐわしき大地)  
Auti Te Pape (Women at the River)  
4. アウティ・テ・ハベ(川岸の女たち)  
5. マナオ・トゥパパウ(彼女は死霊のことを  
考えている)  
Manao Tupapau. She thinks of the  
Spirit of the Dead  
6. 同上  
7. マルル(感謝)  
Maruru (Offerings of Gratitude)

**9**  
エウロペの略奪  
The Rape of Europa  
1898-1899年(1928年刊) 木版  
242×230mm 個人蔵(当館寄託)

**10**  
テ・アトゥア(神々)  
Te Atua (The Gods)  
1899年頃(1961年刊) 木版 240×225mm  
個人蔵(当館寄託)

**11**  
エミール・ベルナル 1868-1941  
Émile BERNARD  
十字架のキリスト  
The Crucifixion  
1894年 木版 352×150mm

**12-14**  
フェリックス・ヴァロットン  
1865-1925  
Félix VALLOTTON

**12**  
大騒ぎ、あるいはカフェの情景  
The Brawl, or Cafe Scene  
1892年 木版 170×250mm

**13**  
街頭デモ  
The Manifestation  
1893年 木版 205×320mm

**14**  
『万国博覧会』  
The World Fair  
1901年 木版 122×164mm程度  
1. 動く歩道 The Moving Footway  
2. 夕立 The Downpour  
3. ラリックのウィンドウ  
The Window of Lalique  
4. 5時 Five O'clock  
5. カイロ通り Cairo Street  
6. 花火 Fireworks

**15**  
ジャン＝エミール・ラブルール  
1877-1943  
Jean-Émile LABOUREUR  
通り過ぎていく連隊  
The Passing Regiment  
1900年(1919年の刷り) 木版  
227×299mm

**16-17**  
ウィリアム・ニコルソン 1872-1949  
William NICHOLSON

**16**  
『アルファベット』より  
An Alphabet. 1978 edition  
1898年(1978年の刷り) 木版・手彩色  
440×320mm  
1. Fは花売り娘 F is for Flower Girl  
2. Jは騎手 J for Jockey  
3. Xは木版彫り師 X Xylographer

**17**  
『アルファベット』  
An Alphabet  
1898年刊 リトグラフ(多色)  
310×247mm

**18**  
エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー  
1880-1938  
Ernst Ludwig KIRCHNER  
脱穀する人  
Thresher  
1922年 木版 493×640mm

**19**  
フランツ・マルク 1880-1916  
Franz MARC  
眠る羊飼いの女  
A Sleeping Shepherdess  
1912年 木版 200×240mm

**20**  
コンラート・フェリクスミュラー  
1897-1977  
Conrad FELIXMÜLLER  
『詩と絵でつづるドタバタABC』より  
A Nonsense Alphabet in Pictures  
1925年刊 木版 235×300mm  
1. K 猫が窓から外をながめています/  
L ルカは切り絵をしています  
Cat looks out of the Window/  
Luca cuts out Pictures  
2. G 釣り鐘草が静かに鳴っています/  
H うさぎはいつも自由に飛びまわります  
Bellflower rings in a quiet/  
Rabbit always jumps as it wants

**21**  
田中 恭吉 1892-1915  
TANAKA Kyokichi  
『月映』Vより あおそら  
Blue Sky, from Tsukuhae (Reflection  
of the Moon) V  
1914年(1915年刊) 木版 155×108mm

**22**  
藤牧 義夫 1911-1935?  
FUJIMAKI Yoshio  
ENOKEN之図  
Head of ENOKEN, Comedian  
Enomoto Ken'ichi  
1934年 木版・手彩色 250×340mm

**23**  
棟方 志功 1903-1975  
MUNAKATA Shiko  
『山懐嶺』より 心眼の柵  
Earnest Prayer, from Sankai-sho  
(Heart of the Mountains)  
Blue Violin  
1967年 木版・手彩色 407×225mm

**24**  
竹田 鎮三郎 1935生まれ  
TAKEDA Shinzaburo  
『メキシコの祭り』より ミチョアカン  
の祭り・25オ  
25 years old, Festival in Michoacán,  
from Festivals in Mexico  
1973年 木版 415×323mm

**25**  
ヨルク・シュマイサー 1942-2012  
Jörg SCHMEISSER  
『日本の伝説』より 赤ん坊を食べた女  
The Girl who ate a Baby, from  
Woodcut for Japanese Legends  
1972年 木版 690×470mm

**26**  
ヴァシリイ・カンディンスキー  
1866-1944  
Wassily KANDINSKY  
『響』  
Sounds  
1913年刊 木版(多色) 285×280mm

**27**  
ジャン・アルブ 1886-1966  
Jean ARP  
『囲われた太陽』より  
The Encircled Sun  
1966年刊 木版(多色) 480×380mm

**28**  
ミンモ・バラディーノ 1948生まれ  
Mimmo PALADINO  
『涙でいっぱい』より 煙=壁  
Smoke-Wall, from Lacrimose  
1986年  
木版、リノカット、アクアチント(多色)  
690×1552mm

**29-30**  
ヘレン・フランケンサラー  
1928-2011  
Helen FRANKENTHALER

**29**  
東、さらにそのさきへ  
East and Beyond  
1972年 木版(多色) 801×545mm

**30**  
野生の微風  
Savage Breeze  
1974年 木版(多色) 800×686mm

**31**  
スーザン・ローゼンバーグ 1945-2017  
Susan ROTHENBERG  
青いバイオリン  
Blue Violin  
1986年 木版(多色) 1080×965mm

**32**  
テリー・ウィンタース 1949生まれ  
Terry WINTERS  
『ファロウズ』より  
Furrows  
1989年 木版 680×545mm

**33**  
アンゼルム・キーファー 1945生まれ  
Anselm KIEFER  
ブリュンヒルデ=グララーネ  
Brünhilde-Grane  
1991年 木版・手彩色 2800×1850mm



## 参考文献

八重樫春樹「ヴァロトンと木版画の復活」

『ヴァロトンの木版画』 石橋財団ブリヂストン美術館 1994年

以下は当館刊行物

佐川美智子編『書物の森へ』 1996年

『生活の中の版画 民衆版画展』 2002年

『版画の技法と表現』 2003年(改定第二版)

## 西洋の木版画 500年の物語

2020年9月26日(土)ー11月23日(月・祝)

2020年9月26日発行

編集 町田市立国際版画美術館(和南城愛理)

制作 ニューカラー写真印刷株式会社

町田市立国際版画美術館

〒194-0013 東京都町田市原町田4-28-1 Tel.042-726-2771/0860

<http://hanga-museum.jp/>

この冊子は3,000部作成し、1部当たりの単価は77円です(職員人件費を含む)

表紙

ウィリアム・ニコルソン

『アルファベット』より

「Xは木版刷り師」

1898年